

排 泄

ヘルパーステーションだいとう 藤井 美智子

私は、毎回訪問の度に利用者の方が尿意、便意の訴えが出来るのか、移動能力があるのか、言葉の理解が出来るのか、観察、確認しながら手助け、援助しています。なんとかトイレまで移動可能の方は自らの力で用便、尿を済まされるよう見守り援助しています。

排泄物の量や状態を確認し気になる点があればステーションへ連絡、ステーションより必要に応じて医師や看護師等に連絡。ヘルパーはその指示を受け対応に当たります。

上肢麻痺があるため便器が上手く取り扱えずベッドを汚したり、動作が鈍いため便所にたどり着く前に漏らす等の場合には早めにトイレ誘導したりポータブルトイレを活用する事も考えます。こんな場合は福祉用具や住宅改修など整っていると介助の時ヘルパーも腰痛予防が出来るので助かりますね。

よく「4～5日排便がないのです」と訴えを聞く事が有ります。その度、「繊維質の食事を摂っていますか？」「足の上げ下ろしでもかまいません。運動していますか？」「水分は充分取っていますか？」「車椅子や杖をついて歩いていますか？」などの語りかけをし、ヘルパーと一緒に腹部へ温かいタオルを当て「の」の字を書きながら時計廻りへのプッシング^①を施行しています。排泄動作の自立を促す為残存機能に合わせた介助を工夫し失禁の有無や時間毎のトイレ誘導等排尿への声かけをする事で少しでも生活能力の改善になる事を望んでいます。